

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ②⑥

『尾張津島見聞録・語り継ぎたい津島の歴史について』

今月の言葉 『伊勢津島両方参らにや片参り』

津島市には他の市町村にはない、子どもたちのための歴史読本があります。小中学生のための津島の通史のテキストです。平成22年、平成25年、令和元年と三度の改訂をし、現行本は『語り継ぎたい津島の歴史』です。今回皆さんに手にとり、読んでほしい本は以下の津島の歴史に関する書籍です。

津島の達人 尾張津島見聞録 ジュニア版 (平成22年12月)

つし丸・マッキー・ふじかの 津島歴史探検隊 (平成25年12月)

語り継ぎたい津島の歴史 (令和元年11月)

津島人物伝 津島ゆかりの素晴らしい人々 (平成18年2月)

これらのテキストには、津島の弥生時代から現代にいたる歴史が書かれています。津島の地名の由来、戦国時代の武将たちと津島とのかかわり、津島神社と尾張津島天王祭、毛織物の発展、近現代の津島出身の文化人、名物名産など身近な歴史についてエピソードを通じて知ることができます。市立図書館や学校の図書室に保管されています。是非一度手にとってみてください。

最近見たテレビ番組、放映は終わってしまったのですが、感動した番組がありました。『BSプレミアムドラマ しずかちゃんとパパ』という番組です。ご覧になりましたか。もしチャンスがあれば、是非ご覧ください。ドラマの内容は、聴くことに障がいのあるしずかちゃんのパパ(笑福亭鶴瓶さん)と娘のしずかちゃん(吉岡里帆さん)との心のつながりや葛藤を描いた作品です。様々な出来事を通じて、「聴くことに障がい」があるという事はどんなことなのか、家族の思い、結婚によって新しく家族になる人の思い、そしてまわりの地域の人々の支え合いについて考えさせられました。物語の横糸の部分には、どこの自治体も抱えている商店街の再開発の問題があり、地域の人々が助け合い、懸命に話し合う姿に感心しました。いずれにしても、人と人とのつながり、コミュニケーションの大切さを教えてくれるドラマでした。

身近な歴史でもドラマでも、自分の足元を見つめるきっかけとしてほしいと思います。歴史を学習する意味は、目の前の問題について、どのように問題が発生したのか、以前に解決したことがあればどのように解決したのか、過去の記録から学びます。それと共に現在とはまったく違う状況を理解し、乗り越えた柔軟で多様な考え方(相違に気づく)を身に付けることにあります。

令和4年5月11日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視